

問1 北条泰時が制定した御成敗式目の中で、諸国の守護に課せられた職務として正しいものはどれですか。当時の条文には、御家人に京都の警備を命じることや、重大犯罪の取り締まりについて記されています。(2021年 徳島公立入試 類似)

1. 朝廷の政治を監視し、天皇の代わりを管理する。
2. 御家人に京都の警備(京都大番役)を命じ、謀反人や殺人などを取り締まる。
3. 全国の田畑の面積を調査し、農民から納められる年貢の額を決定する。
4. 諸大名の参勤交代を監督し、江戸の治安を維持する。

問2 山形県寒河江市の慈恩寺に伝わる鎌倉時代の仏像を調査した記録によれば、当時の武士社会は将軍と御家人の強い結びつきによって支えられていました。将軍が御家人の領地を保証したり新たな領地を与えたりする「御恩」に対し、御家人が果たすべき義務である「奉公」の具体的な内容として、最も適切なものはどれですか。(2019年 山形県公立入試 類似)

1. 戦乱の際に軍勢に加わって戦いに参加したり、京都や鎌倉の警備にあたりすること
2. 大名が一年おきに領地と江戸を往復し、妻子を証人として江戸に住まわせること
3. 収穫した農産物の一部を、租・庸・調などの軍税として都まで運んで納めること
4. 幕府の許可を得て、東南アジア諸国との間で朱印船貿易を行い利益を上げること

問3 元寇の際、北条時宗が幕府の最高責任者として行った対応と、その後の社会への影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2021年 福島県公立入試 類似)

1. 防衛戦であり、新たに獲得した土地がなかったため、参戦した御家人に十分な恩賞を与えることができなかった。
2. 元の優れた兵器に対抗するため、鉄砲を大量に輸入して九州沿岸の警備を強化した。
3. 御家人たちの負担を減らすため、全ての軍役を免除し、幕府の直轄軍のみで防衛にあたった。
4. 朝廷と協力して元と和平交渉を行い、博多の港を元に割譲することで侵攻を食い止めた。

問4 東大寺南大門の金剛力士像に代表される鎌倉時代の彫刻は、それ以前の平安時代の優美な作風とは大きく異なります。この時期の造形表現の背景や特徴について述べたものとして、最も適切な説明はどれですか。(2016年 岡山公立入試 類似)

1. 新興の武士の気風を反映した、写実的で力強い表現となっている。
2. 公家社会の好みを反映した、繊細で優雅な美しさを追求している。
3. 禅宗の教えに基づいた、簡素で枯淡な美しさを表現している。
4. 写実性よりも、仏教の神秘性を強調した抽象的な表現を重視している。

問5 11世紀末から13世紀にかけて断続的に行われた十字軍の遠征は、日本の歴史におけるどの時期の出来事と重なりますか。当時の日本の状況として最も適切な説明を選びなさい。(2018年 沖縄公立入試 類似)

1. 平安時代末期の院政期から、鎌倉幕府の成立を経て、蒙古襲来(元寇)が起こった時期にあたる。
2. 遣隋使や遣唐使の派遣が盛んに行われ、大陸の進んだ文化を取り入れながら律令国家が形成されていた時期にあたる。
3. 足利義満が金閣を建立して日明貿易を推進し、室町文化が開花していた時期にあたる。
4. キリスト教が日本に伝来し、織田信長や豊臣秀吉によって天下統一が進められていた時期にあたる。

問6 鎌倉時代において、地頭が荘園領主(公家や寺社)に対して実質的な支配権を強めていくことができた背景として、地頭に認められていた権利や制度の説明として正しいものはどれですか。(2024年 山口公立入試 類似)

1. 土地の管理や警察権の行使に加え、軍費として兵糧米を徴収する権利が与えられていたため。
2. 地頭は朝廷から直接任命される役職であり、幕府の支配を受けずに独自の裁判権を持っていたため。
3. 地頭には、農民から直接税を徴収するのではなく、中国から輸入した銅銭での納税を義務付ける権限があったため。
4. 地頭は定期的に土地の所有者を入れ替える「班田収授法」を運用する責任者であったため。

問7 13世紀後半、元寇における軍役の負担や貨幣経済の浸透により、鎌倉幕府に仕える武士たちが経済的に困窮する事態となりました。この状況を改善するために、1297年に幕府が出した法令の内容とその背景として最も適切なものはどれですか。(2025年 茨城公立入試 類似)

1. 元寇が防衛戦であり恩賞として与える土地が不足していたため、生活に苦しむ御家人の借金を帳消しにさせた。
2. 明との正式な貿易を開始して幕府の財政を立て直すため、特定の商人にのみ貿易の独占権を与えた。
3. 大名の勢力を統制し武士の規律を正すため、城の無断修理や勝手な婚姻を禁止する厳しい基準を設けた。
4. 異国船の来航による混乱を防ぐため、海岸に近づく外国の船をためらわずに撃退するよう各地の役人に命じた。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 2**
御家人に京都の警備（京都大番役）を命じ、謀反人や殺害人などを取り締まる。
- 御成敗式目では、守護の権限を「大犯三箇条（だいばんさんかじょう）」と呼ばれる三つの職務に限定しました。具体的には、京都大番役の催促、謀反人の逮捕、殺害人の逮捕です。これは、守護が国司の権限を侵しすぎないように制限し、武士社会の秩序を保つ目的がありました。
-
- 問2** **答え 1**
戦乱の際に軍勢に加わって戦いに参加したり、京都や鎌倉の警備にあたりたりすること
- 鎌倉幕府における将軍と御家人の関係は、土地を媒介とした主従関係でした。将軍は御家人の領地を認めたり、新たな領地を与えたりする「御恩（本領安堵・新恩給与）」を与えました。これに対し、御家人は「いざ鎌倉」という言葉に象徴されるように、戦乱時に軍勢に加わって戦いに参加することや、番役として京都や鎌倉の警護を行うといった「奉公」の義務を負いました。選択肢にある参勤交代は江戸時代、租・庸・調は律令時代、朱印船貿易は安土桃山時代から江戸時代初期の制度です。
-
- 問3** **答え 1**
防衛戦であり、新たに獲得した土地がなかったため、参戦した御家人に十分な恩賞を与えることができなかった。
- 元寇は日本を侵略から守るための防衛戦であったため、戦勝によって敵から奪った土地などを確保することができず、幕府は命がけで戦った御家人たちに十分な「恩賞」を与えることができませんでした。自費で軍役を負担した御家人たちの生活は困窮し、これが幕府に対する不満へとつながり、鎌倉幕府が衰退する大きな要因となりました。
-
- 問4** **答え 1**
新興の武士の気風を反映した、写実的で力強い表現となっている。
- 鎌倉時代の文化は、それまでの貴族中心の文化とは異なり、新たに政治の実権を握った武士の精神が色濃く反映されています。彫刻の分野では、運慶らが金剛力士像で見せたような、解剖学的な正確さや激しい動き、生命力あふれる写実的な表現が主流となりました。これに対し、繊細で優美な表現は平安時代の国風文化などの特徴であり、簡素で枯淡な美しさは室町時代の東山文化などに見られる特徴です。
-
- 問5** **答え 1**
平安時代末期の院政期から、鎌倉幕府の成立を経て、蒙古襲来（元寇）が起こった時期にあたる。
- 十字軍の遠征が始まった11世紀末は、日本では白河上皇が院政を開始した時期と重なります。その後、12世紀末に鎌倉幕府が成立し、遠征の終盤にあたる13世紀後半には元寇が発生しています。世界史における中世ヨーロッパの大きな動乱と、日本における武士の台頭から武家政権の確立までの時期はほぼ並行しています。
-
- 問6** **答え 1**
土地の管理や警察権の行使に加え、軍費として兵糧米を徴収する権利が与えられていたため。
- 地頭は幕府の軍力を背景に、現地で土地管理や年貢徴収を担うだけでなく、軍費としての「兵糧米」を徴収する権利（加徴米）を持つなど、経済的・軍事的な基盤が保証されていました。この強い権限を背景に、本来の領主である荘園領主に年貢を納めないなど、現地での支配を強めていくこととなりました。他の選択肢は、朝廷の官吏、貨幣経済の普及、律令制の説明であり、鎌倉時代の地頭の性質とは異なります。
-
- 問7** **答え 1**
元寇が防衛戦であり恩賞として与える土地が不足していたため、生活に苦しむ御家人の借金を帳消しにさせた。
- 元寇は外国からの侵略を退ける防衛戦であったため、幕府は敵から奪った土地を御家人に恩賞として十分に分配することができませんでした。さらに、この時期には貨幣経済が広まっており、軍費の負担で借金を抱える武士が急増していました。鎌倉幕府はこうした御家人の困窮を救うために「永仁の徳政令」を出し、御家人が売却したり質に入れたりした土地を無償で取り戻させ、借金を帳消しにする措置をとりました。